日常のカルテ ⑩⑦

県医師会員　多田 靖宏
（福島市・福島赤十字病院耳鼻咽喉科主任部長）

花粉症

誰もがかかる可能性

「花粉症」とは、アレルギー性鼻炎のうち原因物質（アレルゲン）が花粉の場合を指します。花粉が空中に舞って鼻や口などの呼吸器、目に入ることで体が異物として認識し、外に排出しようと、くしゃみや鼻水、涙が出やすくなります。スギ花粉が最も広く知られていますが、春のカモガヤや夏から秋のブタクサ、ヒノキなどもあります。

花粉症は誰もがかかる可能性があります。何歳からでも発症しますが、一般的には学童期までが多いとされています。主な症状はくしゃみや鼻水、鼻づまりです。目のかゆみや充血、せき、のどの痛み、頭痛が見られることもあります。花粉症の場合、発熱はなく透明な鼻水が出ます。風邪は発熱を伴い黄色の鼻汁が出ることが多いです。鼻の粘膜は、花粉症で白っぽくなりますが、風邪は赤くなります。確定診断は皮膚テストや血液検査でアレルゲンを見極めます。血液検査の場合は一度に複数のアレルゲンの測定が可能です。

花粉症の治療法にはいくつかの選択肢があります。

①薬物療法…アレルギーを抑える内服薬や点鼻薬、点眼薬などを使って症状を和らげます。貼り薬も認可され、臨床に用いられるようになりました。ドラッグストアで購入できる市販薬も充実してきています。薬剤の種類によっては眠気を誘発する場合があり、注意が必要です。

②減感作療法…近年は舌下免疫療法として行われています。スギ花粉の成分を毎日内服して体を徐々に慣れさせ、体質を変えて根治が望める治療法です。ただし、月に1回程度の診察を数年にわたり繰り返すため根気が必要になります。

③生物学的製剤による治療…比較的最近開始された治療法で、皮下に注射してアレルギー反応をブロックします。有効性は高いですが、一定の間隔で長期間自己注射を行う必要があり、治療費が高額になる場合があります。

④手術療法…鼻粘膜をレーザーで焼いたり、切除したりすることでアレルギー反応を起きにくくします。特に鼻づまりの強い症例に有効で、数年間は鼻の通りが維持されます。局所麻酔での日帰りや短期手術が可能ですが、施設によって対応が異なります。受診する医療機関にお問い合わせください。

一般的には、軽症～中等症は①や②を選択し、症状に応じて③や④を追加するのがお勧めです。花粉症の治療はその原因物質が何であるかを知ることから始まります。耳鼻咽喉科専門医の診察を受けて、それぞれの病状に合わせたオーダーメードな治療の検討をお勧めいたします。

＝次回は3月3日掲載＝

掲載日:2025/02/03　面名:くらしA ページ:007　福島民報 :本紙 :朝刊